

マンション管理員検定「勝てる勉強法」

マンション管理員検定は、今回が第1回目となります。第1回目の試験は、どのような形式の問題が出題されるか、またどれくらいの難易度で出題されるか、過去の実績がないため判断が難しいところがあります。しかし、それは受験生のどなたも条件は同じです。きちんと対策を立てておけば、逆に高得点も見込めるのです。

1 数字には注意する

マンション管理員検定に限らず、問題としやすいのが数字です。100を200にしたり、4分の1を2分の1とするだけで、簡単に不適切な肢を作ることができるからです。

中性洗剤は通常 40～80 倍に希釈して使用される。

(×) 通常 60～100 倍に希釈される。

テキストで数字が出てきたら、アンダーラインを引くなどの工夫をして、間違えないようにすることが重要となります。

2 管理員の業務とされているものに注意する

マンション管理員検定なので、管理員の業務や役割についての記述には特に注意しておく必要があります。管理員の仕事とされているのか、そうでないのかをしっかりと把握していきましょう。

立会業務として、管理員は設備の保守点検時には、保守点検箇所に出向しなければならない。

(×) 原則は管理事務室での待機。

3 ○回や○個といった数が限定されているものに注意する

マンション管理員検定では、個数問題が予想されます。個数問題とは、「適切なものはいくつあるか」と数をきいてくる問題です。これは単純な四肢択一とは異なり、消去法で答えを出すことができません。正確な知識が求められる問題なのです。

こういった問題の対策として、テキストで○回や○個といった数が出てきたら注意する必要があります。

4 最初や2番目等の順番が出てくるものに注意する

「最初」といった、順番が決まっているものも問題にしやすいので注意しましょう。

日本で初めて鉄筋コンクリート造共同マンションが建設されたのは、大正 12 年の同潤会アパートである。

(×) 大正 5 年の長崎県の端島、通称軍艦島が最初である。